新春ごあいさつ

運営委員会　会長
藤尾東泉

新年明けましておめでとうございます。

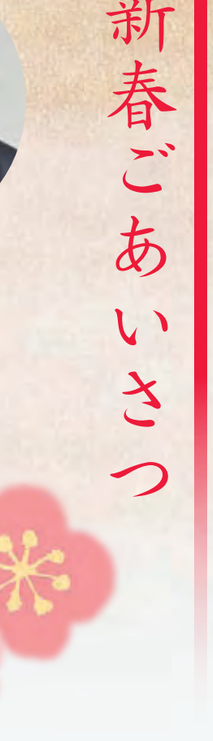
JAいわてグループの会員JA・組合員役職員ならびにご家族の皆さま方には、お揃いで新しい年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

また、昨年は、観測史上初めて本県に上陸した台風10号をはじめ台風の多い年であり、本県JA管内でも沿岸部を中心に甚大な被害が発生いたしました。あらためて被害にあわれましたJA・組合員の皆様にお見舞い申し上げますとともに、発生から本年で丸6年を迎えます「東日本大震災」によって被災された地域に向けて継続的に取り組んでおります生産振興策とあわせまして、被害にあわれた産地の復旧復興支援にも取り組んでいく所存です。

さて、昨年を振り返りますと、年の瀬を前に農業・農協改革をめぐる動きが一段と慌ただしくなった1年でありました。その中でも11月に出された政府の規制改革推進会議農業WG（ワーキンググループ）の提言は、「農業協同組合」事業の根幹をなす「委託販売」や「購買事業」の1年以内での実質廃止や、生乳の「指定団体制度」廃止を求めるなど、組合員の「自主・自立」によって成り立つ我々「農業協同組合」が、今取り組んでいる「自己改革」の努力を一切顧みない暴論であると言わざるを得ないものでした。また、当初よりTPP（環太平洋経済連携協定）からの離脱を表明していたトランプ氏が次期米大統領選で勝利したにもかかわらず、安倍政権は発効する見込みのないTPP承認案を、衆参両院で可決し成立させました。今後の各国との貿易協定のあり方が、米国を含めて2国間協議が主流になっていくと思われている現状において、このことはTPP協定レベル以上の輸入自由化への懸念を生み出しており、今後も引き続き予断を許さない状況が続いております。

こうしたなかで、今次中期3か年計画の2年目を迎える全農岩手県本部におきましては、第44回JA岩手県大会決議にもとづく「農家組合員の所得増大」ならびに「農業生産の拡大」に向けた最重点施策を引き続き着実に実践してまいりますとともに、「『魅力増す農業・農村』の実現に向けたJAグループの取り組みと提案」の骨子をふまえて取り組み内容を拡充していきます。あわせて、この「自己改革」を、「農業競争力強化プログラム」によるフォローアップを必要としないスピード感で実施し、JA・組合員の負託にお応えした「目に見える」成果を速やかにお示しできるように、職員一丸となって取り組んでまいります。

新年を迎え、引き続き皆様方の変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げますとともに、益々のご健勝とご発展を祈念いたしまして、年頭のご挨拶とさせていただきます。



県本部長
畠山俊彰

新年明けましておめでとうございます

さて、昨年は、政府の規制改革推進会議農業WG（ワーキンググループ）が示した「農協改革に関する意見」が、大きな波紋を呼びました。「全農」解体論ともいえるこの提言は、JAグループからの強い反発を踏まえて決定された「農業競争力強化プログラム」における同会議の直接的干渉の排除という形で一応の決着は見たものの、依然として「農業改革」の本丸は「全農」であるという状況に変わりはありません。

昨年4月より当県本部では、「農家組合員の所得増大」に向けた「自己改革」実践計画として、「純情産地確立『栄（さかえ）』プランを策定し、実践しております。今次中期3か年計画の2年目となります本年は、当該プランに加えて昨年JAグループが農業WGに提示した「『魅力増す農業・農村』の実現に向けたJAグループの取り組みと提案」の骨子も踏まえ、「1円でも多く生産者手取りを確保する」ために次の項目を重点的に取り組みます。

第1に、販売事業では「販売力強化」の「環として、産地・県本部・実需の結びつきの一層の強化につながる「買取販売」の拡大を図ります。特に米穀部門では、昨年本格デビューし高い評価を得ております「銀河のしずく」と、本県のフラッグシップ米に位置付けられた県オリジナル新品種「金色の風」のラインナップによる県行政と一体となったブランド化に取り組み、実需・消費者からの「いわて純情米」全体の評価を高めることで、販売価格への結びつけはもちろん、「売れる米の産地」としての地位を確立し、きたる平成30年度に備えてまいります。また園芸部門では加工・業務用向け野菜の買取拡大をはじめ、グループ会社を含めた直販事業の強化をおし進めることで、「いわて純情野菜」の産地形成を販売面からもサポートします。また、畜産部門では引き続き「いわて牛」ブランドのPR強化に取り組みます。

第2に、「トータルコスト低減」に向けては、生産資材価格の「見える化」を図りながら、従来の大型農家向け直送・規格に加えて、肥料・農薬における銘柄集約や低コスト原料の輸入、また低価格モデル農機の開発など組合員のニーズに応えられる供給体制の構築に努めますとともに、行政に対してもジェネリック農薬登録制度のあり方をはじめ、コスト低減を阻害している法制度等の改正を働きかけてまいります。また、流通経費（輸送・保管）についても引き続き低減を図っていくとともに、将来構想の一環として事業体制の広域化や集約化の検討も進め、事業運営コストの見直しを図ります。

第3に、「生産基盤の維持・拡充」ですが、園芸部門では「第3次園芸産地確立計画」の拡充を図り、反収向上に積極的に取り組みとともに大型園芸農家への冬春作物の導入を積極的に提案してまいります。畜産部門では、昨年から本格開始した和牛改良センターを活用した「借り腹事業」を始め、新たな事業効果による県内肥育農家への素牛供給体制の強化を引き続き図っていきます。また、資材部門の「生産者手取り最大化に向けたモデルJA・生産者の取り組み」については、その実証結果を県内に水平展開していく段階に移行してまいります。

JA・組合員の皆様の声に真摯に耳を傾けながら、よりスピード感をもって「自己改革」を進め、必ず皆様のご期待に応えられる・必要とされる存在であり続けるために全職員が一丸となって邁進してまいりますので、本年も引き続き皆様のご指導、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

特集

食の安全・安心と適正施肥の取り組みについて

資材部

純情産地発
クラーラ
KLARA
vol.810
2017.1

みんなの力で!
がんばろう!岩手
純情産地いわて

タイトルのKlara（クラーラ）は、宮沢賢治の手帳にしるされている言葉で、エスペラント語で「晴」「暖かい」を意味します。
全農の未来がそして世の中の全てが、明るく晴れやかにという願いが込められています。

contents

新春ごあいさつ …… 02
特集
食の安全・安心と
適正施肥の取り組みについて
…… 03
消費地だより …… 06
純情人 …… 06
みんなの分教場 …… 07
純情むすめハーフタイム …… 09
ニュースワイドアングル …… 10

1.はじめに

本会では、純情産地いわてブランドの維持・向上のため、食の安全・安心確保に向けた各種分析および土壌診断を実施しております。今回は、その中から残留農薬分析と土壌診断についてご紹介させていただきます。

■営農技術課で実施する分析業務

(1)残留農薬分析
(2)米食味分析
(3)麦・大豆成分分析
(4)粗飼料分析
(5)麦赤カビ毒分析
(6)放射性物質測定
(7)米DNA検査
(8)土壌診断

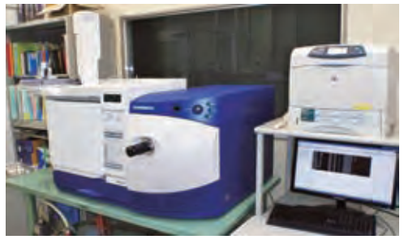
2.残留農薬分析

全国のJAグループの中でもいち早く、平成5年に残留農薬分析を開始し、平成18年のポジティブリスト制移行に先立ち、平成15年に分析機器を強化して現在に至っています。

分析対象となる農薬成分は、岩手県の農薬流通実態を考慮して決定し、効果的に県産農産物の安全性を確認できるよう努めています。平成15年以降順次分析成分数を増やし、平成28年の分析成分数は191成分となり、県内に流通する農薬の約7割をカバーする状態にあります。

本会の残留農薬分析では、分析対象農産物に対応する防除記録を提出していただき、分析結果と突合せを行うとともに農薬の使用方法についても確認を行っています。その結果について研修会等を開催し、生産現場にフィードバックすることで農薬適正使用の意識向上に取り組んでいます。

農薬の適正使用において最も重要なことは、ラベルどおりに使用することです。ラベルどおりに使用することで農薬の効果を十分発揮させることができ、残留農薬基準値超過を防止することができます。また、農薬を使用する際には、近隣作物へのドリフト対策や防除に使用した器具の十分な洗浄等についても注意する必要があります。



残留農薬分析機器(2台)

農薬適正使用のポイント

❶農薬は、ラベルの記載内容を確認して使用する
「思い込み」ではなく「確認」する癖を。

❷散布後は、散布器具をよく洗浄する
洗い残しは、次に使用する作物に散布され、基準値超過のリスクが高まる。

❸農薬のドリフトは、しない、されない
散布する作物にだけ農薬がかかるよう、細心の注意を払う。

❹防除記録は正確に記載する
農薬を使用する者として、安全な農産物を生産する農業者として、しっかり記帳する。

3.土壌診断

本会の土壌診断は昭和53年から開始し、農業改良普及センターの土壌分析縮小や平成20年の肥料価格高騰を機に分析数が増加し、現在では年間5000点程度を実施しており、その作目割合は、水稲1割、畑作1割、野菜畑6割、果樹・花き1割、その他1割となっています。

平成20年の肥料価格高騰を契機に適正施肥に対する意識が向上しているものの、県内の土壌化学性は、補給型施肥や減肥等が可能な土壌の割合が高い状況にあります。

土壌診断に基づく適正施肥を普及するためには、従来の施肥体系を見直す必要がありますが、肥料を減らすことによる収量・品質への影響が心配されたことから、平成23年より県と協力し補給型施肥普及展示圃(水稲、野菜)を実施してきました。その展示圃の結果は、収量・品質とも従来の施肥体系と比較して概ね同等以上となり、土壌診断に基づく補給型施肥が生産現場で活用できることが確認されました。

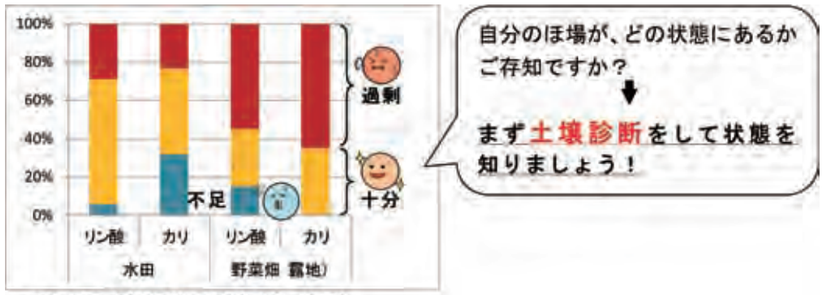
土壌診断結果に基づく適正施肥は、土壌の健全化とともに生産費の削減につながる取り組みです。現在の厳しい農業情勢の中では、積極的に導入を検討する必要があります。

4.おわりに

長い間かけて確立されてきた「純情産地いわて」のブランドを維持していくため、本会では今後も科学の視点からサポートしていきます。

現状　県内の農地土壌の養分蓄積

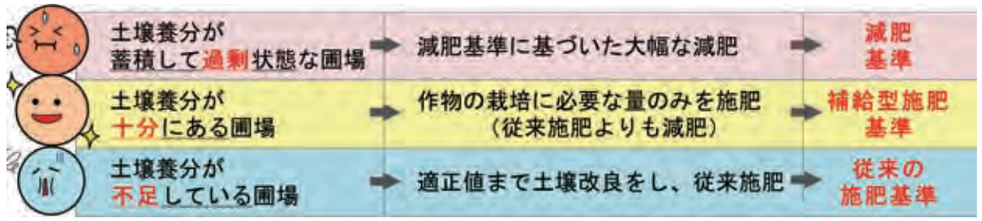
農地土壌の半数以上は、養分が十分にあり、**リン酸**や**カリ**の施肥量を**減らすことが可能**な状態にあります。



養分の蓄積状況別のほ場割合（H25）
（農業研究センター研究成果より）

適正施肥とは?　土壌診断に基づく施肥管理のことです

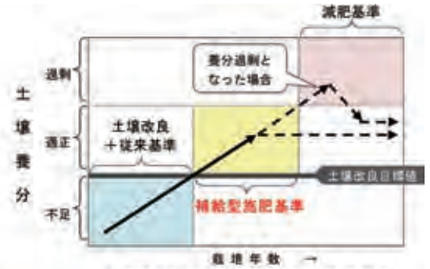
土壌の養分状態に応じた施肥量で効率的に施肥を行いましょう。



補給型施肥基準

これまでの土づくりにより、土壌に蓄えられた養分を利用し、**収穫等によって圃場外に持ち出される分だけを補給する施肥方法**。
土壌改良目標値を満たしたほ場に適用できます。⇒**適正な養分状態の維持**

補給型施肥の考え方の概念（キャベツの例）



土壌養分に応じた施肥管理基準の適用

基準別の施肥量の比較(水稲の例)

(kg/10a)

施肥基準	窒素	リン酸	カリ	ケイ酸	堆肥
減肥基準	8	0	0	—	—※2
補給型施肥基準	8	5	5	30※1	—※2
従来の施肥基準	8	8	10	—	1.0t

※1　補給型施肥基準では、ケイ酸の施肥量も設定。
※2　堆肥施用量は設定されていない。
　　堆肥から供給されるリン酸、カリを考慮に入れ、基肥施用量を決定する。

※補給型施肥に関する資料:平成27年度省資源体系確立事業成果より抜粋(岩手県農業普及技術課、岩手県施肥合理化協議会作成)

減肥基準(水稲の例)

土壌中の**リン酸・カリ養分が過剰に蓄積**した場合は、**従来の施肥基準よりも大幅な減肥**による栽培が可能です。

水稲のリン酸減肥基準

可給態リン酸値※1 (mg/100g 乾土)	リン酸施用量 (kg/10a)	土壌改良
～6	標準量	必　要※2
6～30	標準量	不　要
30～	無施用	

※1　トルオグ法による
※2　可給態リン酸6mg/100gを目標とする

水稲のカリ減肥基準

交換性カリウム値 (mg/100g 乾土)	カリ施用量 (kg/10a)	土壌改良
～20	標準量	必　要※
20～40	標準量	不　要
40 以上	無施用	

※　交換性カリウム20mg/100gを目標とする

消費地販売部 発 純情ブランド消費地の「今」をリポートします。

消費地だより

都内でのりんご食育教室、冬恋はるか宣伝会開催のご報告について

年末はどのように過ごされましたでしょうか。大晦日の紅白歌合戦ですが、会場での観覧者は抽選で決まるそうで、今回は約1000人の当選者に対し、希望者は99万件も殺到。倍率は宝くじ並みの922倍だったそうです。

年末の野菜販売状況ですが、昨年の暖冬と比べ関東地方の気温も冷え込み、鍋物の需要が高まり、生しいたけなど冬物野菜の引き合いは強く順調な販売となりました。りんごは不作の影響から入荷が少なく、引き合いが強めの相場展開となりました。今回は、11月下旬に行われたりんご関連のPR活動についてご報告いたします。

野菜ソムリエの島田さんによるりんご食育授業

りんご食育教室

11月25日に東京都大田区の大井第一小学校の5年生4クラス(計134名)を対象に、将来のりんご消費拡大のため、本県産りんごの食育授業を行いました。

授業では、野菜ソムリエの島田実果さんからりんごの成分がなぜ健康に良いかなどの説明や、本会職員から1個のりんごを作るために生産者が定植から収穫までの苦労などを説明しました。その後、本県産サンふじ・王林を実際に食べてもらい、味の違いを体験してもらいました。生徒からは「甘くてとても美味しかった」「毎朝食べている」「もっと食べたい」と笑顔で話しました。食育は長い期間を要する地道な活動ですが、これをきっかけに大消費地の東京で本県産りんごを選んで買う人が増えることを期待しています。

冬恋・純情はるか宣伝会

11月30日、東京都にある大田市場内で開催された「冬恋・純情はるか宣伝会」には、岩手冬恋研究会北田正昭会長や熊谷峰男副会長、本会照井勝也副本部長が出席。北田会長より「はるかは寒さによって美味しさが増す品種。今年は夏秋期の天候不順からりんごの栽培が難しい年でしたが、11月半ばから寒くなりましたので市場の皆様からの率直な評価を頂ければと思います」とのあいさつがありました。

試食会では、食べた人のほとんどが「はるか」の持つ香りの豊かさや糖度の高さに驚き、買参人・市場関係者から高く評価していただきました。また、この日初めて大田市場で冬恋がセリにかけられ、高値で取引されました。

今後は生しいたけなどの店頭販促フェアを積極的に開催する予定です。また、これからは生しいたけ・促成アスパラガス、寒じめほうれんそうなど本格出荷がはじまります。今後とも生産者の皆様には、選果・選別へ一層のご配慮をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

冬恋研究会・北田会長を囲んでの冬恋トップセールス記念撮影

今月のリポーター
消費地販売課
佐藤 亮太

JA全農いわての 純情人(じゅんじょうびと)

園芸部
花き・資材課
塚本(つかもと) 友樹(ゆうき)さん

趣味・特技

剣道・ダブルダッチ・スノーボード・ドライブ

現在の担当業務

切花販売業務(担当JA:いわて中央、いわて花巻)、JAいわて花巻鉢りんどう推進業務、岩手鉢物研究会推進業務、等

これからどんな職員になってみたいか

花き・資材課の花担当として業務にあたっていますが、まだまだ理解していかなければいけないなと感じることがたくさんあります。頼れる先輩方が周りには多くいるので、教わったことはしっかりと吸収し、少しでも早く皆様に信頼される職員になれるよう日々勉強しながら精進していきたいです。

みんなの分教場

米穀部　米穀販売課
技術主管
伊藤 専一

平成28年産米農産物検査結果の概況について

農林水産省は12月2日、平成28年産米の全国作況指数を103の「やや良」で確定したことを発表しました。北海道、東北及び北陸は生育期間を通じて天候に恵まれ、平年作を上回っています。関東以西では、8月中旬まで天候に恵まれ、その後は日照不足傾向で経過したものの、登熟は順調に推移し、作柄は、平年作と平年作を上回りますが約半々となっています。

都道府県別では、北陸が全国最高の107「良」・新潟は108「良」、北海道102、東北は103「やや良」、岩手は、日照不足や台風の影響があったなかでも県全体の作況指数は102の「やや良」となっています。

表1　28年産米作況指数

全国	北海道	北陸	関東	近畿	九州	東北	岩手	青森	秋田	宮城	山形	福島
103	102	107	101	102	101	103	102	104	104	105	103	102

(農林水産省資料)

表2　28年産水稲うるち玄米の等級比率(10月末現在)

地域別	等級比率(%)			
	1等	2等	3等	規格外
全国	84.4	13.5	1.2	0.9
東北	93.7	5.4	0.6	0.4
全国1位・長野	97.8	1.9	0.3	0.1
全国1位・岩手	97.8	2.0	0.2	0.0
全国3位・福島	95.6	3.9	0.2	0.3

(農林水産省資料)

表3　28年産米銘柄別等級比率(岩手県全体10月末現在)

種類	銘柄	27年1等比率	28年1等比率
水稲うるち玄米	岩手県産ひとめぼれ	96.0%	97.7%
	岩手県産あきたこまち	96.0%	98.5
	岩手県産いわてっこ	90.7%	94.5
	岩手県産どんぴしゃり	97.4%	99.1%
	岩手県産銀河のしずく	—	100.0%

(農林水産省資料)

全国の水稲うるち玄米の農産物検査概況(平成28年10月31日現在)は、1等比率は84.4%と前年同期の83.4%より1.0ポイント高いものとなっています。

2等以下に格付けされた主な理由は、心白及び腹白27.1%、充実度18.3%、整粒不足16.8%、着色粒21.1%となっています。心白及び腹白は前年より3.9ポイント低いものとなっています。

岩手県産米の初検査は、水稲もち玄米は昨年より6日遅い9月13日の検査となっています。一方、水稲うるち玄米は昨年より3日早い9月21日となっています。

10月31日現在の検査結果は、1等比率97.8%と前年同期の95.7%より2.1ポイント高いものとなっています。

2等以下に格付けされた主な理由は、着色粒が65.7%(前年同期47.4%)、形質(その他)8.3%、異種穀粒(もみ等の混入)7.4%となっています。

ただし、着色粒の発現は総検査数量比で昨年2.0%、今年は1.5%と昨年より0.5ポイント低いものとなっています。

品質概況は、長雨や台風の影響で刈取作業が進まず、刈遅れによる品質低下が心配されましたが、被害は少ないものになっています。本年産米は、カメムシによる着色粒の発現があったものの、シラタ粒(乳白粒、心白粒、腹白粒)の発現が少なく、品質は全体とし「良好」なものとなっています。

品種別では、「ひとめぼれ」は、高温障害による腹白・乳白粒等の発現は極めて少なく、「あきたこまち」は、千粒重や粒張りが良いものとなっています。「いわてっこ」「どんぴしゃり」は、小粒ですが充実度、光沢が優れたものとなっています。

「銀河のしずく」は、「あきたこまち」より生育は遅く、「どんぴしゃり」よりやや早いなか、シラタの発現も少なく、光沢及び粒ぞろいが良好となっています。銘柄以外とし、岩手118号(金色の風)は、青未熟及びシラタが散見されるものの、粒張りの良いものとなっています。

最後に、天候不順にもかかわらず、生産者等の適切な栽培管理、刈取り調整等の努力により、「いわての美味しいお米生産・販売戦略」が推進されました。

米の流通段階は、消費者・実需者の食品に対する「安全・安心」への関心が高いことはもとより、全国的なブランド米への取り組みがなされる一方で、用途別の需要への対応も求められており、米を取巻く環境は毎年厳しいものがあります。

JAグループでは、消費者・実需者の多様な要望に対し、適正かつ公平に農産物検査を実施し、今まで積み上げてきた、純情産地いわてに対する信頼を失わない取り組みが重要となっています。農産物検査における法令遵守はもちろんのこと、「調整・検査・保管」の各段階での更なる細やかな対応をお願いし、平成28年産米検査結果の報告とします。

2016 いわて純情むすめハーフタイム

「2016いわて純情むすめ」として活動を始めてから、早くも半年が経ちました。初めてのことに戸惑ってばかりいた彼女たちも、いつしか自分の思いを持つように。折り返し地点を迎えた今、これまでの活動を振り返り感じたこと、また残り半年に向けた抱負を語ってもらいました。
司会進行役は、英語ペラペラ頼れる“はるごん”こと玉木春香さんです。

中新井田沙希（さきてい）

佐藤江津子（えっちゃん）

酒田芽李（めりり）

千葉絢加（あやや）

千葉　私はシンガポールでの「銀河のしずく」の試食販売かな～。アフリカからの旅行客が試食してくれて、娘さんが「美味しい」って買ってくれた時に、岩手のお米が世界に知れ渡っていく様子を見れて嬉しかったな。

佐藤　私が1番印象に残っているのは、さんさ踊りです。生まれて初めて踊ったので、最初は全然踊れなくて、「本番大丈夫かな…」って思っていましたが、最終的には7人全員で踊りきることができて楽しかったし、何より安心しました。

酒田　どれも思い出深いけれど、沖縄に行ったことかな。11月に行ったから、寒い岩手とは違って、温かく、観光もできたのが楽しかった。初めて行ったのだけど、想像以上に岩手のお米を知って下さっている人がたくさんいてびっくりしました。

中新井田　1番最初の業務だった前潟イオンでのサクランボの販売ですね。どう接客すれば良いのだろうとか、すごい緊張したのもあるのですが、ずっと岩手に住んでいるのに岩手の知らないことがたくさんあるな～って感じて、自分自身がもっと岩手について学ばないといけないなって思いました。

田中舘　私は、実りのフェスティバルっていう各県のPRスタッフが集まるイベントです。自由時間に色んなブースを周ってみたんだけど、正直売り方が私たちと全然違って、困惑したところもあるけど、もうちょっと私たちもグイグイ行った方がいいのかなって思ったな～。すごい良い刺激を受けた！

玉木　私はアイーナで海外の方向けの試食をした、いわておもてなしフェア。大学で英語を学んでいるので、それを活かして世界に自分と同じ名前の「はるか」をPRできたのは嬉しかったな。

野崎　なにより、東京に1人で行くことが多くて、怖かった。（笑）でも、イベントをこなすことで慣れてきて、口調や接客を、そのイベントに合わせることができてきたと思う。私たち純情むすめって、オススメしたり、渡したりする業務が多いけど、この時は、野菜を切り盛りしなくちゃいけなかったから、なんでもできるようになろうと思ったし、達成感もすごいあった。

一同　えー！そんなこともあるんだー。大変そう。

印象に残っている仕事は何ですか？

千葉　アフリカからの旅行客が試食してくれて、娘さんが「美味しい」って買ってくれた時に、岩手のお米が世界に知れ渡っていく様子を見れて嬉しかったな。

佐藤　私が1番印象に残っているのは、さんさ踊りです。生まれて初めて踊ったので、最初は全然踊れなくて、「本番大丈夫かな…」って思っていましたが、最終的には7人全員で踊りきることができて楽しかったし、何より安心しました。

酒田　どれも思い出深いけれど、沖縄に行ったことかな。11月に行ったから、寒い岩手とは違って、温かく、観光もできたのが楽しかった。初めて行ったのだけど、想像以上に岩手のお米を知って下さっている人がたくさんいてびっくりしました。

中新井田　1番最初の業務だった前潟イオンでのサクランボの販売ですね。どう接客すれば良いのだろうとか、すごい緊張したのもあるのですが、ずっと岩手に住んでいるのに岩手の知らないことがたくさんあるな～って感じて、自分自身がもっと岩手について学ばないといけないなって思いました。

田中舘　私は、実りのフェスティバルっていう各県のPRスタッフが集まるイベントです。自由時間に色んなブースを周ってみたんだけど、正直売り方が私たちと全然違って、困惑したところもあるけど、もうちょっと私たちもグイグイ行った方がいいのかなって思ったな～。すごい良い刺激を受けた！

玉木　私はアイーナで海外の方向けの試食をした、いわておもてなしフェア。大学で英語を学んでいるので、それを活かして世界に自分と同じ名前の「はるか」をPRできたのは嬉しかったな。

野崎　なにより、東京に1人で行くことが多くて、怖かった。（笑）でも、イベントをこなすことで慣れてきて、口調や接客を、そのイベントに合わせることができてきたと思う。私たち純情むすめって、オススメしたり、渡したりする業務が多いけど、この時は、野菜を切り盛りしなくちゃいけなかったから、なんでもできるようになろうと思ったし、達成感もすごいあった。

一同　えー！そんなこともあるんだー。大変そう。

純情むすめになってから、自分自身に変化・成長はありますか？

玉木　試食を提供するときは、待っているのではなくて、自分から進んでいかないと、食べてもらえない時も多々あるから、経験しているうちに、積極性が身についた気がします。あとは、社会人の方と接する機会が多いので、マナーや礼儀も知ることができました。

田中舘　自然に県産の野菜やお肉を買うようになったし、PRしながら学んでいる分、純情産地いわてが好きになりました。そして、家族とか友達にも口コミじゃないけど、本当に美味しいからって勧めるようになった！（笑）

中新井田　今まで人前に出たくなかったけど、いろんなイベントの中でステージに立つ機会が多くて、それを見に来てくださる方々のためにも、恥ずかしがっている場合じゃないと思うようになりました。

酒田　私は人見知りで、業務はもちろん、大学での発表でも緊張していたけど、業務を重ねることに、少しそれが緩和されたことが成長だと感じています。

玉木春香（はるごん）

野崎玲奈（れいぴょん）

田中舘美咲（みさみさ）

玉木　前より、美味しいお米を食べたいって感じるようになったよね！

野崎　私は、もともと接客など人と関わる仕事は好でしたが、もっと好きになりました。さらに純情むすめとして、常に見られているという意識をするようになったし、言葉遣いとか普段のだらしない部分とかも直ってきた気がします。（笑）

佐藤　県外の方にとって、岩手県はそんなに知られていないイメージを持っていましたが、イベントで東京・横浜へ行ったときに、意外と「住んだことあるよー」、「行ったことあるよー」、「とても良いところだよねー」と言ってくださる方が多くて、岩手県民であることを誇りに思うようになって、いろんな人に県産農畜産物を勧めるようになりました。

玉木　ちなみにどんなものを勧めるの？

佐藤　やっぱり「銀河のしずく」かなー。実際に買って食べてくれて、美味しいって言ってくれたときは、すごく嬉しい！

千葉　純情むすめに推薦してくれた人のおかげで、このメンバーたちと出会えたし、県外の人と話す機会だってないし、いろんな職場のスタッフと出会えたと思うので、人との出会いに感謝するようになりました。あと、お米マスターになれたと思う！

一同　お米マスター??（笑）

千葉　そう！いくつかの県が集まってお米を販売するイベントに参加した時に、全部の種類を食べさせてもらって、それぞれのお米の味が全然違うことに気づいたの。それからお米に対してうるさくなった。っていう変化。（笑）

一同　わかるー！

玉木　前より、美味しいお米を食べたいって感じるようになったよね！

野崎　私は、もともと接客など人と関わる仕事は好でしたが、もっと好きになりました。さらに純情むすめとして、常に見られているという意識をするようになったし、言葉遣いとか普段のだらしない部分とかも直ってきた気がします。（笑）

これから、さらに岩手県産農畜産物をPRするためにはどのようなことが必要だと思いますか？

田中舘　さっきも似たようなこと言ったけど、「岩手県の農畜産物は美味しいのに、PRの仕方が下手」って各都道府県の方からよく言われるから、もっと積極的に行くべきだと思う。

野崎　押しが弱いとかよく言われるよね。岩手県民の優しさが出過ぎているんだと思う。

田中舘　他のPRスタッフは、私たちに比べて、意識がとても高いのが、見ただけで伝わってくる。

千葉　話し方や姿勢もアナウンサーみたいな人が多くて、そこを真似していきたい。

野崎　それも大事だと思うけど、やり過ぎちゃうと、近寄りづらい雰囲気も出ちゃうと思うな～。だからスーパーのマネキンさんみたいにフレンドリー感を大事にしていくのもアリだと思うし、ポスターとかパンフレットだけじゃ伝わらない〝生産者の思い〟を消費者の方々へつないでいくことも大事なことだと思う。

酒田　たしかに。生産者と消費者が直接話す機会って、あまりないもんね。私たちが、伝えていければ、少し値段が高くても、苦労を知ってもらえるから買ってくれそう。

玉木　では、純情むすめとして後半戦は〝積極的に〟と〝生産者の思いを消費者へ伝えていく〟を目標にこれからの活動をがんばっていきましょう！

一同　はい‼

後半戦に向けての抱負や意気込みをどうぞ。

野崎　前半で学んだことはたくさんあったから、それを活かしながら、積極的に〝グイグイ〟PRしていきます！

酒田　前半は積極性が足りなかったと自分でもすごく感じますし、岩手は本当に美味しいものばかりなので自信を持って、PRしていきます。

佐藤　前半での良かったところはそのまま継続させ、悪かったところはしっかりと修正していけるようにしますので、後半戦もみんなよろしくね。（笑）

千葉　積極的に業務することも目標ですが、振り返ってみるとお客さんからの質問に答えられなかったことが多かった気がします。PRするからには自分の言葉で伝えたいので、まず勉強して、後半戦もみんなで協力し合っていきたいです。

中新井田　前半は業務に慣れることで精一杯でしたが、充実していて楽しかったです。これからはお客さんから話しかけてくださるような笑顔や立ち振る舞いをしていけるように頑張っていきます。

田中舘　業務内容は販売する仕事が多いので、〝物を売る前に、自分を売る〟をモットーに、普段の何気ない会話を大切にして「純情むすめ」の認知度が上がるように努力していきたいと思います。

玉木　「高くても買いたいな」って思ってもらえる販売の仕方を学んでいって、皆さんが言っていた通り、積極的にPRしていきながらも、お客さんとの人間関係を大事にしていけたらいいなと思います。あと半年はあっという間だろうけど、これからもみんなで楽しくやっていきたいと思いますので、これからもよろしくお願いします。

一同　よろしくお願いします（笑）

岩手118号、名称は「金色の風」に決定！

12月8日（木）

岩手118号発表会

岩手県は12月8日、2017年秋にデビューする新品種米「金色（こんじき）の風」を発表しました。名称は、平泉の世界遺産・中尊寺金色堂や、たわわに実った稲穂をイメージ。日本の食卓に新たな風を吹き込むという願いを込めました。

発表会には、達増拓也知事やJA岩手県五連藤尾東泉会長、JA全農いわて畠山俊彰県本部長、さらには女優の「のん（本名：能年玲奈）」さんが登場。のんさんは「おわんのふたを開けると香りが広がり、粒がふっくらとしてすごく美味しかったです」と笑顔で話しました。県が今年発表した「銀河のしずく」は、“米のヒット甲子園”（日経トレンディ）の大賞を受賞。本会畠山県本部長は「金銀のツートップで岩手の米を発信していきたいです」と話しました。

「金色の風」は豊かな甘みと、粘りの良さ・やわらかさによるふわりとした食感が特長。産地は県南部に限定し、県の基準を満たす生産者が栽培マニュアルを守り品質を維持します。

初年度にあたる2017年は500トン、20年には1万トンの生産を目指します

全国での活躍願う

12月8日（木）・9日（金）

県代表校へ支援金贈呈

JA全農いわてとJAいわて花巻は、第96回全国高等学校ラグビーフットボール大会に出場する黒沢尻工業高校ラグビー部と、第95回全国高校サッカー選手権大会に出場する遠野高等学校サッカー部へそれぞれ、いわて純情豚1頭分、県産米120kg、支援金を贈呈しました。JAいわて花巻本店で行われた、黒沢尻工業高校ラグビー部への贈呈式には、同校福士猛夫校長と髙橋智也監督、八重樫春樹主将が出席。本会小原俊英副本部長とJAいわて花巻の高橋専太郎代表理事組合長より目録を手渡しました。

小原副本部長は「岩手県大会2連覇おめでとうございます。いわて純情豚をたくさん食べて、力をたくわえ、1戦1戦大事に戦ってきてください」と激励。受け取った八重樫主将は「今まで支えてくださった方々への感謝の気持ちを忘れず、3年間やってきたことをすべて出し切り、ベスト8まで残れるように頑張ります」と意気込みを述べました。

黒沢尻工業高校への贈呈式参加者
（左から小原副本部長、福士校長、髙橋監督、八重樫主将、高橋代表理事組合長）

編集後記

あけましておめでとうございます。

2016年、私にとって社会人1年目という大きな年になりました。振り返ってみると、毎日が本当にあっという間で、日々新しいことの連続でした。その中で、心が折れかけたこと、嬉しかったことなど様々な経験ができたほか、自分自身がもっとレベルアップしなければいけないと感じました。

皆さまがもっと読みやすい広報誌を作成するため、すべての経験を自分の財産として大切にし、学び続けていきますので、今年もよろしくお願いいたします。（小野）

県産りんごの出来栄え競う

10月20日（木）・11月24日（木）・12月16日（金）

いわて純情りんごコンテスト（第1部、第2部）、表彰式

園芸部は、北上市の岩手県農業研究センターにて、いわて純情りんごコンテストを開催しました。このコンテストは県内りんご生産者の生産技術の研鑽を促すと共に、消費者に「いわて純情りんご」を紹介して一層の消費拡大を図ることを目的に、毎年開催しているものです。

今年度は、全65点の出品作の中から品種の部ジョナゴールドで盛岡市の下久保農園C（JAいわて中央）の出品作が最優秀賞に選ばれました。審査は品種（ジョナゴールド、サンふじ、シナノゴールド）、総合、若者（おおむね40歳以下）の3部門で実施。審査の翌日にはイオンモール盛岡で展示、販売を行い、来場者からは「生産者の方々の愛情やこだわりを感じる」など多くの反応が寄せられ、大変好評でした。

審査員により厳正な審査が行われました

酪農技術の向上を図る

11月22日（火）

岩手県・若手酪農家の集いパートⅦ

岩手県の酪農関係団体で組織する岩手県乳質改善協議会は、県内の酪農後継者やJA担当者など約90名を参集し、盛岡市内のホテルにて岩手県・若手酪農家の集いパートⅦを開催しました。この集会は酪農家間のコミュニケーションと相互の研鑽を目的として今年で7回目の開催。今回は若手酪農家5名がこれまでの経験や経営内容について発表しました。

一戸町で家族経営を行い、共進会へ積極出品を心掛けている西舘友紀さんは、牛群改良や子牛の飼養管理について紹介。「今後は乳質の向上を目指すとともに、次回の全共では優等賞を狙います」と意気込みを語りました。

20歳で就農し、家族経営を営む西舘さん

笑顔あり、涙あり、白熱卓球大会！

12月4日（日）

第4回JA全農いわて いわて牛カップ S-1卓球グランプリ 兼 第14回全国ホープス選抜卓球大会・岩手選抜代表選手選考会

畜産酪農部は、県内小学生を対象とした卓球大会「第4回JA全農いわて いわて牛カップ S-1卓球グランプリ 兼 第14回全国ホープス選抜卓球大会・岩手選抜代表選手選考会」へ特別協賛しました。大会には昨年より30名ほど多い総勢110名が参加し、年齢別の4つの部門に分かれ、白熱した試合が繰り広げられました。上位入賞者へは副賞としてトロフィーのほか、いわちくサーロインステーキなど豪華賞品が贈呈されました。

今回岩手県選抜代表に選ばれた選手5名は、平成29年3月24日（金）～26日（日）に鳥取県で開催される、全国大会へ出場します。

最後にはみんなで元気に記念撮影をしました

フラワーコンテスト表彰式も

11月24日（木）

平成28年度いわて花き生産者の集い

岩手県と岩手県農協花き経営者協議会、JA全農いわては、平泉市内のホテルにて平成28年度いわて花き生産者の集いを開催しました。

これには、生産者、関係団体、JA、県機関など約70名が出席。今年9月に開催したフラワーコンテストの表彰式も同時に行われ、最優秀賞の農林水産大臣賞を獲得した西和賀町の吉田孝男さん（JAいわて花巻）をはじめとする受賞者29名が称えられました。

講演では、岩手県農業研究センター野菜花き研究室　川村浩美室長より「岩手県りんどうオリジナル新品種の特性について」と題し、現在研究を進めているりんどうの新品種7種について報告・説明をし、質疑応答では生産者と直接対話するなど、互いに理解を深めました。

りんどう新品種の研究結果を報告する川村室長

純情産地発 KLARA
JA全農いわて通信 クラーラ 平成29年1月1日発行 No.810
【編集・発行】JA全農いわて 総合企画課 【印刷】株式会社 杜陵印刷

Quality of Iwate

いわての牛乳 ありがとうキャンペーン

サンキュー 合計390名様に抽選で当たる!

期間 2017年 1/10(火)→2/28(火)

リッチコース

20ℓを一口としてご応募ください

がんばって集めて応募しよう!

2名様 牛乳飲みながら家族でテレビ鑑賞!
H30ライン LC-32H30 SHARP 32型 液晶テレビ

3名様 大きなゴミから小さなゴミまで最も多くのゴミを同時に吸い取ります。
コードレスクリーナー Dyson V6 Fluffy

4名様 選べる!ペア宿泊券
- 八幡平市 新安比温泉 静流閣
- 雫石町 ホテル森の風 譽宿
- 花巻市(花巻温泉郷) 渡り温泉 別邸 紙
- 一関市(厳美町) 矢ぴつ温泉 瑞泉閣
- 上閉伊郡大槌町 三陸花ホテル はまぎく

※ご希望の旅館は当選後にお選びいただけます

チャンス1

10ℓを一口としてご応募ください

お好みの賞品を選んで当たる!

- A賞 6名様 花粉の季節も快適に! Panasonic 加湿空気清浄機
- B賞 8名様 新作ソフト続々登場! Newニンテンドー3DS LL ライム×ブラック (ニンテンドー3DSのロゴ・ニンテンドー3DSは任天堂の商標です。)
- C賞 10名様 混ぜる・つぶす・擦る これ一本 ハンドブレンダー クリック&ミックス プラス
- D賞 20名様 美味しいいわての恵み! いわて純情ギフト5,500円コース
- E賞 30名様 いわての食材を堪能しよう! いわて牛・焼肉モモ・バラミックス
- F賞 50名様 もらってうれしいギフト券 JCBギフトカード3,000円分

チャンス2

リッチコースまたはチャンス1にはずれた方の中から抽選でいずれかが当たる!

- 57名様 いわて純情米 恋するおコメひとめぼれ5kg
- 100名様 いわての牛乳 乳製品詰合せ
- 100名様 ミルクおに オリジナルフェイスタオル

※不測の事態が生じ賞品の入手が困難となった場合は現行相当品に変更させていただく場合がございます。予めご了承ください。※写真はイメージです。※色はお選び頂けません。

対象メーカー

- (有)安比高原牧場
- 岩泉乳業(株)
- (株)岩手牛乳
- 大石乳業(株)
- 大船渡乳業(株)
- (株)おおのミルク工房
- 小岩井乳業(株)
- タカナシ乳業(株)
- (一社)葛巻町畜産開発公社
- 岩手ふるさと農業協同組合
- (一社)田野畑村産業開発公社
- 奥中山高原農協乳業(株)
- 不二家乳業(株)
- (株)湯田牛乳公社

※農協牛乳もキャンペーンの対象となります。

応募方法

対象メーカーの牛乳パックに記載の公正マーク表示部分を10ℓ分(1ℓ=10枚、500mℓ=20枚 200mℓ混合可)を1口(リッチコースは20ℓ分を1口)として、専用応募封筒または一般封書に必要事項を明記の上、ご応募ください。お一人様何口でもご応募いただけます。

公正マーク表示部分の種類別名称に「牛乳」以外の名称が記載されているものはキャンペーン対象外です。

公正マーク表示部分はココだよ

JA全農いわて | いわての牛乳ありがとうキャンペーン事務局 [(株)岩手広告社内] 受付期間 2017年3月末日まで 受付時間 平日9:30~18:00(土日祝日を除く) ☎ 019-623-3706 JA 全農いわて 検索

※個人情報の取扱い:お預かりした個人情報につきましては、賞品の発送のみに使用いたします。お客様の承諾なく第三者に開示・提示いたしません。

みちのくよい食プロダクト 食は命の源泉。JAグループ

私たち全農グループは、生産者と消費者を安心で結ぶ懸け橋になります。

私たちは「安心」を3つの視点で考えます。
- 営農と生活を支援し、元気な産地づくりに取り組みます。
- 安全で新鮮な国産農畜産物を消費者にお届けします。
- 地球の環境保全に積極的に取り組みます。

JA 全農いわて 総合企画課
JA 全農いわてホームページ
〒020-8605 盛岡市大通一丁目2番1号 TEL019-626-8615 FAX019-653-6145
http://www.junjo.jp

PRINTED WITH SOY INK